

研 修 報 告 書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名

会 派：青雲

視察者：川内賢幸

2 視察先・テーマ及び日時

「官民・官学で取り組む次世代へ繋ぐプラットフォームづくり」

◎令和7年2月4日（火） 14時00分～16時00分

研修先：佐賀県佐賀市 SAGA プラザ研修室

研修内容：「地方から世界へ羽ばたくアスリートを～SAGA スポーツピラミッド構想～」

佐賀県町「SSP2024・SSP 推進局 SSP 統括官」 日野稔邦氏

3 研修の内容

佐賀国民スポーツ大会・障がい者スポーツ大会を一つの契機として、2018年にスタートした佐賀スポーツピラミッド構想（通称 SSP）。

4 研修の感想

佐賀スポーツピラミッド構想は、スポーツを楽しむ→全国大会出場候補→日本トップ級候補 SSP ホープアスリート（中1～）→日本トップ級 SSP ライジングアスリート（高2～）→世界 SSP トップアスリートからなるピラミッドをイメージして取組を進めているもの。「スポーツを楽しむ」という観点から、すそ野をどんどん広げて巻き込んでいくことを念頭に「くめるところとはどんどん組んでいく」スタイルをとっている。失敗を恐れず、関係が少しでもあれば SSP に巻き込んでいる。

根底にある考えとして、東京や大阪などの大都会では起こりにくいシビックプライドを子どもたちから涵養していくことであり、必要な「地元への自己肯定感を上げること、夢や誇りを子どもたちへ抱かせること」も考えの一つに組み込まれている。

また、SSP のわかりやすい面として「佐賀から世界へ」というスローガンがイメージしやすく取り組みやすい点も考慮されていた。

国民スポーツ大会へ名称が変わってから初めての大会が SAGA 国スポであった。最近では、国体不要論が出ているが、その背景として「我が県に重きを置きすぎており、ターゲット世代にのみ多くの予算がつぎ込まれており、結果として最大瞬間風速で終わってしまい、ターゲット世代から漏

れた選手や県民には恩恵がない」という一面が分析されていた。

佐賀県では、国体のその先の在り方を明確にするために SSP 構想を立ち上げており、「スポーツをする」ことだけにフォーカスするのではなく、「見る」「支える」「育てる」視点を持って取り組むことが大事との視点で取り組んでいた。

欧米などで実施されているスポーツビジネスになぞらえて、学校では稼ぐ概念がないことから「審判や指導者」について、謝金を賃金を設定して取り組んでいくべきとの考えも示された。

取り組み事例として、県立高校での量不足問題に県が主体的に取り組んでおり、九州電力の社員寮を高校生の寮として利用する、久光製薬などの民間企業との連携を通じて民間の遊休資源を活用する取り組みを行っていた。

選手たちを育成するうえで、各県立高校ごとに尖らせる取組を進めており、例えばレスリングやクライミングに特化した高校を作っていくこと県が率先して行っていた。

国民スポーツ大会。障がい者スポーツ大会の開催が目的ではなく、大型施設をスポーツを通じてどうやって行くかしていくかという点にも触れられた。

事例として佐賀アリーナの活用が紹介され、ミュージシャンなどのコンサートを実施するなど「見て楽しむ」をコンセプトに幅広く活用されていた。スポーツ×スポーツではなく、「スポーツ×○○」という視点で施設活用を考えていることに、県の政策の自由度を感じた。

◎成果及び市政への反映

都城では、令和 9 年の国民スポーツ大会・障がい者スポーツ大会に向けた取り組みが本格化していく時期に入った。ゴールデンエイジ、ターゲットエイジに焦点を当てた取り組みを 2 巡目国体決定以降続けているが、単発ではなく継続的にスポーツに親しむ環境を総合的に構築していく必要性を感じた。

宮崎県では、野球の宮崎サンシャインズやサッカーのテゲバジャーロ宮崎といったローカルチームが頑張っている。本市では、読売ジャイアンツや千葉ロッテマリーンズ、横浜 FC、アルビレックス新潟などのプロチームもキャンプに来ており、これらと市民をいかに掛け合わせて将来的な活動、活性化につなげていけるかが重要である。つまりは、「市がやっている」から「市民をあげて取り組んでいる」に変えていく必要がある。この点は、本市の多くの政策にも言えることであり、非常の重要な視点だと考える。

佐賀県が主体となって行っている SSP 構想のようにはいかないが、都城市としてソフト面の独自性と将来ビジョンを示していくことは非常に重要であり、各競技団体の連携を密に図っていくことはもちろん、子どもたちにスポーツの様々な楽しみ方「プレー」「観戦」「サポート」などを感じてもらい取り組みも重要であると考えます。

また、クロキスタジアムやアカキリフィールドを国スポ以降も 120%活用し行くためには、スポーツばかりではなく、「スポーツ×○○」の視点で大いに利活用していくことが求められており、そのことが、地域の活性化にも活かしていけるものと考えます。

宮崎国スポ・障スポまでを見るとあと 2 年程度のことで終わってしまうが、上記の視点を持って取り組むことで 20 年ビジョン、30 年ビジョンといった長期ビジョンが生まれてくる。今後の政策提言や調査においてもこの視点を持ちながら本市の総合的なスポーツビジョン形成に取り組んでいく。

Saga Sport Pyramid Project / SSP

SAGA から、世界に挑戦する

challenge the world from Saga

SSP/SAGAスポーツピラミッド構想
アスリートの人生にコミットした佐賀だからこそできる唯一無二のプロジェクト

世界に挑戦する佐賀ゆかりのトップアスリートの育成を通じてスポーツ文化（する、育てる、観る、支える、稼ぐ）の裾野を拡大し、さらなるトップアスリートの育成につながる好循環を確立することで、スポーツのチカラを活かした人づくり、地域づくりを進めるプロジェクトです。

Saga SSP Project

「する・育てる・観る・支える・稼ぐ」スポーツ文化の裾野拡大

Copyright © 2020 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

Saga Sport Pyramid Project / SSP

SSP構想をみんなで支えましょう!

SSP/SAGAスポーツピラミッド構想は「志」に賛同する県内外の多くの方と一緒に進めていきます。

注

[アスリート・指導者の採用のお願い]

社会人アスリート・指導者が、佐賀で仕事と練習の両立を図ることができるよう、佐賀県では、アスリートを社員として採用する企業・団体を募集しています。アスリート・指導者の層に両利がある企業・団体の募集。SAGAスポーツピラミッド推進グループ（SSPアスリートジョブサポ）にご一報ください。

佐賀県元選手アスリートと企業・団体の連携をします。

アスリート雇用エントリー企業 99 社、ジョブサポ採用企業 17 社 (2024年10月現在)

協

[新しいスポーツシーンを支える寄附のお願い]

・世界や全国で活躍する佐賀県ゆかりのスポーツ選手の育成・支援
・SAGAサンライズパークの整備などスポーツ環境の充実のために、皆様の寄付を活用させていただきます。

SSP 賛助パートナー企業数 29 社 (2024年10月現在)

協

[アスリートを応援する協賛店の募集]

地域一帯となって、一緒にアスリートを応援してくれる企業・店舗「アスリートサーターズ」を募集しています。関心より協賛されたアスリートが所持する「アスリートパス」の掲示がある場合は、アスリートにお得なサービスや特典をご提供いただけます。

アスリートサーターズ 33 店舗 (2024年10月現在)

SSP 賛助のもと賛同企業や団体等と佐賀県が連携し、オール佐賀で「佐賀で成長したい」アスリートたちを支えましょう!

SAGA 応援

協賛 佐賀県 SAGA スポーツピラミッド推進グループ
〒840-0370 佐賀県佐賀市 1 丁目 1 番 50 号
TEL: 0992-25-7345 | e-mail: ssp@pref.saga.lg.jp

Saga Sport Pyramid Project / SSP

Saga Sport Pyramid Project / SSP

OBJECTIVE / SSPが目指す具体的目標

2018年にスタートした SSP/SAGA スポーツピラミッド構想。具体的目標を掲げ佐賀から世界に挑戦するスポーツシーンを担います。

中

- ・毎年、全国で開催する中学生選手・チームが40人(チーム1以上)
- ・2028年ロサンゼルスオリンピック、パリオリンピックにおいて、佐賀ゆかりのトップアスリートが20人出場
- ・SSP推進協議会設立。団体が100以上

協

- ・佐賀から世界に挑戦する新たなスポーツシーンを切り拓く
- VISION
 - ▶ アスリートがスポーツで豊かになる社会
 - ▶ スポーツを活かしたビジネスシーンが広がる社会

SSP構想の推進に向けた重点分野

人材育成 選手・指導者が「学び」「稼ぐ」ネットスポットの創出
 経営者の育成 経営に打ち込み度をもつ経営者創出
 社会人アスリートの人生に寄り添う社会の構築

スポーツ・アスリートを支える文化の定着
 スポーツビジネスによる新たな価値の創出

SAGAアスリート創出、スポーツで稼ぐ、コンサート文化を定着させる取組へ

2018 2020 2021 2022 2023 2024 2028 2031

2018 WJOC 世界ジュニアオリンピック
2020 SAGAアスリート創出
2021 SAGAアスリート創出
2022 SAGAアスリート創出
2023 SAGAアスリート創出
2024 SAGAアスリート創出
2028 SAGAアスリート創出
2031 SAGAアスリート創出

2018 佐賀県立総合体育センター
2020 佐賀県立総合体育センター
2021 佐賀県立総合体育センター
2022 佐賀県立総合体育センター
2023 佐賀県立総合体育センター
2024 佐賀県立総合体育センター
2028 佐賀県立総合体育センター
2031 佐賀県立総合体育センター

2018 佐賀県立総合体育センター
2020 佐賀県立総合体育センター
2021 佐賀県立総合体育センター
2022 佐賀県立総合体育センター
2023 佐賀県立総合体育センター
2024 佐賀県立総合体育センター
2028 佐賀県立総合体育センター
2031 佐賀県立総合体育センター

Saga Sport Pyramid Project / SSP

Saga Sport Pyramid Project / SSP

新たな取組が続々!! 未来に進む SSP 構想!!

その1 全国初の官民連携高校生アスリート寮運用中!

県内高校への県外からの進学を促進し、高校生アスリートの成長を支えます!

その2 スポーツ医学に基づくアスリートの健康支援!

全国初! 県単位で女性アスリートを支援

スポーツ医学に基づく選手育成

- ・JSP女性アスリートウェルネス協議会を設立
- ・JIS5年単位の身体能力測定機能を西九州大学に整備
- ・「女性アスリート外来」(佐賀中病院)を開院
- オアテラや個別的なトレーニングのための体力測定!
- ・web相談窓口(県スポーツ協会)を開院
- 競技特性に合わせた科学的測定・分析
- ・J252プロジェクトと連携し、高校で出張授業

その3 佐賀の豊富なスポーツ資源を生かしてスポーツビジネスを創出!

- ・スポーツと他の産業を組み合わせ、新しいサービスを生み出す! スポーツビジネスのロールモデルの創出
- ・世界標準を佐賀から「スポーツホスピタリティ」の実現

その4 現役アスリートへのセカンドキャリア支援!

- ・競技人生やセカンドキャリアに悩むアスリート
- ・それぞれに応じたオーダーメイド型の特定支援を実施

Saga Sport Pyramid Project / SSP

Saga Sport Pyramid Project / SSP

SSP 構想をオール佐賀で！

Saga SSP Project

SAGA から、世界に挑戦する

always on your side

すべての人にスポーツのチカラを、数億円のAI・IT予算が潤を届かせる。従来にない新しい大会として、手元レジを稼いできたSAGA2024国際スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会は、アスリート個人により対した多様な表彰、大会、上級のアイテムの獲得など、あらゆる面でトップレベルを目指した。SAGA2024は、SAGAスポーツ大会30周年（50周年）の次を意味する。これからは多様なスポーツの発展を次世代に引き継ぎながら、スポーツの魅力を最大限に引き出し、アスリートも、人も、地域も巻き込み社会の発展に貢献します。世界を従来とは違う一つの感覚で捉えるのです。アスリートがアスリートとして生きていく。スポーツを愛した人々のスポーツが活躍する。これに、世界最大の大会を実現する。これに、スポーツが活躍する。アスリートの人生にコミットした人材育成や情報支援、スポーツ施設の充実を図ること。トップアスリートが活躍できる好環境を、そして、そこに競技会場などのスポーツにアクセスが、し、推進。結果として、世界に挑戦する。従来とは異なるスポーツ大会とアスリート。[先]を大切に、する。我々がから、この実現から始まるスポーツ競技オール佐賀、チーム佐賀で実現していきます！

佐賀県知事 山口 利康 (山口)

私ども SSP 構想を始めています

Saga Sport Pyramid Project

<p>株式会社システム</p> <p>代表取締役 岡村 祐司</p> <p>代表取締役 岡村 祐司</p>			
<p>株式会社システム</p> <p>代表取締役 岡村 祐司</p> <p>代表取締役 岡村 祐司</p>			
<p>株式会社システム</p> <p>代表取締役 岡村 祐司</p> <p>代表取締役 岡村 祐司</p>			

Saga Sport Pyramid Project / SSP

2024年11月開催

